

玉日姫御廟



玉日姫御廟

JR 水戸線の稲田駅から南へ 300 メートルほどなれた所に、道路より 50 メートルはあろう石畳の参道を行くと、門とお堂を備えた玉日姫の廟所がある。

代々、西念寺の稲田家が大切に維持管理してきた御廟で、境内には古木が生い茂り、その長い歴史を感じさせる。

玉日姫というのは、禅定法王（後鳥羽院のことか）の第七姫宮、または、関白・九条兼実の代九息女で、京の都から親鸞聖人の後を追って遙々稲田へ参り、朝姫と名を変えて、聖人と生活を共にされた。聖人

のご帰洛の折、剃髪して恵信尼公と名のられ、命終の後、その亡きがらを京都から終生お遣いした池田権之守是定が、この地へ葬られたと伝えられている。

親鸞聖人の妻に恵信尼の存在が知られているが、二人を同一人物としてみる説と、玉日姫を伝説上の人物としてみる説などがある。（恵信尼の墓は新潟県にある）

いずれにしても稲田の地において墓所を大切に護持されてきた歴史を考えれば、人びとに慕われていたその人柄が偲ばれる。